哲学科に入学する皆さんへ

國學院大學文学部哲学科への入学試験の合格、おめでとうございます。哲学科教員一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

さて、一般入試の受験者にはこれからの時期が本番になります。推薦系入試（公募制自己推薦（AO 型）、院友子弟等特別選考、指定校制推薦、協定校推薦、社会人特別選考、附属・系列三高校推薦）を経て入学する皆さんも学習意欲や緊張感を保ちながら、4 月からの大学生活に向けて準備を進めていただく必要があります。早期入学の確定によって、その後の学習レベルが低下し、入学後に大変苦しい修学状況に陥るケースが少なくありません。

そこで、哲学科の「入学前教育」として、皆さんに以下の課題を出しています。充実した哲学科での学びに繋げるために、ぜひこれらの課題にしっかりと取り組んでください。

記

1．國學院大學では、全学部・学科の推薦系入学者を対象とする入学前教育として、「atama(あたま)＋(プラス)」の受講を勧めています。哲学科でも、「英語」および「国語」の受講を強く推奨しています（案内書を参照)。皆さんの基礎学力を高めるためのものです。ぜひ受講してください。

2．次の課題図書の中から 2 冊以上を読み、そのうちの 1 冊について、以下のようなレポートを作成し、締め切り期日までに送付してください。なお、レポートを作成する前に、同封する資料（「ダメレポートから脱出しよう！」）に必ず目を通して、レポートの書き方を学んだうえでお書き下さい。

⑴課題図書の内容から一つの論点を選び、その論点に関わる範囲で課題図書の内容を要約する。

⑵⑴の論点について自分の考えを示す。

◆課題図書◆

①プラトン『饗宴』（新潮文庫、岩波文庫など）
②デカルト『方法序説』（岩波文庫、ちくま学芸文庫など）
※谷川多佳子『デカルト『方法序説』を読む』（岩波現代文庫）などを参照すること
③和辻哲郎『和辻哲郎随筆集』（岩波文庫）

・書式：

A4 サイズ横書き 32 字×25 行、2000 字以上でまとめること（パソコン使用を推奨）
手書きの場合、横書き A4 サイズの 400 字詰原稿用紙にて、５枚以上でまとめること。

・提出締切：**２０２７年2月末日（必着）**

・送付先：〒150−8440　渋谷区東 4-10-28　國學院大學文学部資料室
（なお、送付封筒表に、「哲学科推薦系入学前教育のレポート課題在中」と朱書きのこと）
問い合わせ先：國學院大學文学部資料室（bun_siryo@kokugakuin.ac.jp）

※　レポートは必ず送付先に郵送してください。

３月上旬に、例年、「卒業論文発表会」を行っています。可能な限り、ご参加ください。
詳しくは、1 月頃に X（旧 Twitter)、Facebook でお知らせしますので、ご覧ください。

X（旧 Twitter）https://x.com/kokugakuinphilo
Facebook　https://www.facebook.com/kokugakuinphilosophy/

学修支援講座

ダメレポートから脱出しよう！



１、レポートを執筆する前に

☆ レポートとは、客観的・論理的文章である！

⇒ ①問い ＋ ②答えを導く議論 ＋ ③答え から構成される

具体的には…

①＝序論…問題の背景と問われるべきこと

⇒レポート全体の見通しと問いをはっきり示す

②＝本論…理由と客観的証拠

③＝結論…答え・自分の意見（自分の感想は×）を示して全体をまとめる

以上のような構成が必要！

○レポート執筆チェックリストで、するべきことを確認しよう！

⇒課題の意図は理解できていますか？

⇒満たすべき要件が何か、理解できていますか？

具体的には…

●課題の意図

・何についてどのように答えることを要求されているのかを理解する

例）「自分の考えを書きなさい」といわれたら

⇒

●満たすべき要件

・ 指定されたフォーマットに従う

⇒手書き or ワープロソフト使用

⇒一枚あたりの文字数・行数、フォント（基本的に明朝体、大きさは 10.5～11pt）

・ 学術的作法

⇒ルールに則って書く（引用の仕方、文体等）

⇒コピペ（剽窃）をしない（自分の考えと他人の考えを区別して書く）

２、典型的なダメレポート

課題：教育課程編成の基準である学習指導要領について自由に論ぜよ

（１）問いがない

＜例１＞　単なる授業のまとめや情報の羅列だけではダメ

戦後日本の教育について説明する。第二次世界大戦中の日本では、教育内容や方法が画一的なものだった。これに対して、戦争が終わって 1947 年に文部省から出された「学習指導要領（試案）」はあくまで教師のための「手引き」であった。つまり、子どもが置かれている生活の実情に即して教師が創意工夫できるようになったのである。1951 年の試案ではその傾向が一層強化された。しかし、そうした中で学力低下に対する不安の意見が増えていった。1958 年に出された学習指導要領では「原理、原則あるいは基本的なものをしっかり身につけていく」ことが大事だとされ、教育課程はもう一度中央集権的なものになった。さらに、1968 年の学習指導要領では、教育内容の現代化が目指された。すると教育内容が高度になったことで「落ちこぼれ」と呼ばれる子どもが増え、1977 年の学習指導要領では「ゆとり教育」が目指され、人間性が重視されるようになった。しかし、このゆとり教育にもたくさんの批判がよせられた。そして、ゆとり教育の見直しが検討された。教育についての考え方はこのように変化してきた。

▲ダメポイント

・

・

・

（２）根拠の不明瞭な主張・意見だけで構成されている（客観的・論理的でない！）

＜例２＞　自分の個人的な主張や感想を語るだけではダメ

学校教育において教え込みは悪なのだろうか。私はそうは考えない。「教え込みは悪だ」と言う人の多くは、自由な思考が優先されるべきだと主張する。確かに自由な思考は大事なものだろう。しかし、彼らはなんとなくのイメージから自分勝手に「生きる力」とか「ゆとり」とかを叫んでいるだけなのだ。しっかりと物事を考えるためには、知識が必要である。実際、私も自由に物事を考えられるようになったと思えるのは、しっかりと勉強をしてからである。それ以前は何も考えられなかった。だから、教え込みは悪ではないし、教育現場から追放すべきものではない。実際、ゆとり教育を行って学校現場はどうなったか。いじめや非行は増加し、教育現場は困難な状況に置かれている。子どもたちの学力はひどく低下してしまった。やはりきちんとした基礎基本を小学校の頃から教えなければならない。それが社会のためにもよいことだし、その子自身の幸せのためにもよいことだろう。

▲ダメポイント

・

・

・

《出典》

慶應義塾大学日吉キャンパス学修相談員（2014）『アカデミック・スキルズ：学生による学生のためのダメレポート脱出法』慶応義塾大学出版会、14-15 頁。

３、よいレポート：構成がしっかりしている

序論（問い）

・背景の説明をする
　⇒その課題の主たる対象（この場合、学習指導要領）がたどってきた歴史的変遷の概略を示す
　⇒「レポート全体の見通し」を立てる
・問いを立てる（大きすぎず、小さすぎず…）
　⇒注目すべき事柄およびその時代等を踏まえて

※ 分量はレポート全体の長さにもよるが、全体の長さが 1000～2000 字程度の場合、序論は 200～400 字程度（一段落分）、本論は 600～1200 字程度（二段落程度）、結論は 200～400 字程度（一段落分）が目安

本論（答えを導く議論）

・出所がはっきり分かる根拠を記す（客観的根拠）
　⇒著書や論文、あるいは文部科学省等省庁が出した文書や統計など

・客観的根拠と自分の意見の違いを明確に記す
　⇒客観的根拠：「～によれば、～である」「～には～と記されている」等、断定的に書く
　　自分の考え：「～であるため、～といえる」「～と考えられる」等、自身の意見・判断を示す

・根拠資料の出典を示す
　⇒著書や論文の場合
　　《著書》著者名、著書名、出版年、出版社
　　《論文》著者名、（雑誌・論集の場合はその書名の他に第〇巻〇号あるいは vol. 〇 no.〇）、出版年、出版社、ページ数（pp.12-34　あるいは　12-34 頁）
　⇒Web 上にしかない資料の場合
　　《Web》著者名、論文資料名、出版年（更新年）、Web サイト名、その URL、最終確認日

結論（答え）

・自分にしかない考え方を出す必要はない！
　⇒自分が思いつくことはすでに誰かが書いていることがほとんど！
　⇒先行研究のいくつかの立場を比較検討し、擁護する考え方を支持する理由を述べる

◎よいレポートの例

＜例３＞　客観的根拠を大事にして文章を書く

講義で説明されていたように、教育課程についての考え方は、教科の内容をしっかりと教えようとする系統主義と、子どもの生活経験を重視する経験主義との間を揺れ動いてきた。授業で扱った学習指導要領の変遷はこのことを示している。では、現代の学習指導要領はそのどちらに基づいたものなのだろうか。　　問い

2000年代になって「ゆとり教育」の是非をめぐる教育論争が激しくなり、2008年には学習指導要領が改訂された。学力低下が問題になったことを受けての学習指導要領改訂だったので、系統主義へ傾いたと言えるかもしれない。実際、小学校学習指導要領には「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ」とある(1)。しかし、それはあくまで「創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で」行われるものだとも書かれているし、「個性を生かす教育の充実に努めなければならない」とも書かれている(2)。この点だけを見れば経験主義とも言える。系統主義か経験主義かと言われても、判断するのは難しい。　　答えを導く議論

以上のように、最新の学習指導要領は系統主義の特徴も経験主義の特徴も持っている。「系統主義か経験主義か」という考え方を抜け出て、より建設的に学校教育を考えようとしていると言える。　　答え

(1) 文部科学省『小学校学習指導要領』、東京書籍、2008年、13頁。
(2) 同上。　　脚注で根拠を示す

◎OKポイント

・

・

・

☆さらによいレポートを目指すには

・先行研究をしっかり調べる

⇒授業で提示された文献に引用されている文献をさらに調べる（いもづる式）

⇒文献検索サイトを活用する

有名なのはCinii やGoogle scholar、時事問題を扱う場合は新聞記事検索データベース

⇒接続詞を意識して用いる

などなど

《出典》

慶應義塾大学日吉キャンパス学修相談員（2014）『アカデミック・スキルズ：学生による学生のためのダメレポート脱出法』慶応義塾大学出版会、17頁。